

有力FX企業15社の月間データランキング-2011年12月-

—有力企業15社で12月預かり残高5,000億円、210万口座 年間で1,046兆円の取引高—

【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にてFX(外国為替証拠金取引)店頭取引市場における有力企業15社のアンケート調査を実施した。

1. 調査期間:2012年1月
2. 調査対象:FX業界大手、有力企業のうち社名又は数値の公表を前提として、協力を得られた15社を対象とした。
一部の企業で、統計数値や社名について非公開のものもあるため、集計対象が15社にならないものもある。
※社名及び数値を非公開とする企業は、集計の際、「その他」としてランキングから除外した。
3. 調査方法:当社専門研究員によるe-mailによるアンケート調査

【調査結果サマリー】

◆ 2011年12月は、預かり残高と口座数が増加したが、

ユーロを中心に円高が進み、取引高は振るわず

ドル/円の動きが鈍い上に、ユーロ/円で円高が進行。買いポジションのロスカット回避や、売りポジションが建っていないことで、預かり残高と口座数は増加したものの取引高は減少した。

◆ 2011年12月の預かり残高の第1位は外為どっとコム、第2位はセントラル短資FX

2011年12月末の有力FX企業14社*の預かり残高の合計は、5,010億円で前月比4.47%増となった。

本調査協力企業のうち、FXCMジャパン証券が競合他社を買収したことで大きく預かり残高が増加した以外、他の企業では微増か減少となった。ユーロ取引が増えている中で、ロスカットを回避できた投資家が多くいる企業では預かり残高が増加したと見られている。

◆ 2011年12月の口座数の第1位は外為どっとコム、第2位はFXCMジャパン証券

2011年12月の口座数は有力FX企業14社*の合計で210万口座(前月比5.62%増)となった。本調査協力企業のいずれの企業も前月比で依然、増加している。

◆ 2011年12月の取引高の第1位はDMM.com証券、第2位はGMOクリック証券

2011年12月の月間取引高は、有力FX企業13社*の合計で69兆円(百万通貨は1億円として換算)となり、前月比25.62%減であった。

(*注.集計対象は、預かり残高14社、口座数14社、取引高13社、いずれも無回答を除く。)

★ご注意

本ランキングは、情報提供を目的としており、投資その他の行動を勧誘し、特定企業を推奨するものではありません。

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地:東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長:水越 孝

設立:1958年3月 年間レポート発刊:約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先(当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>)

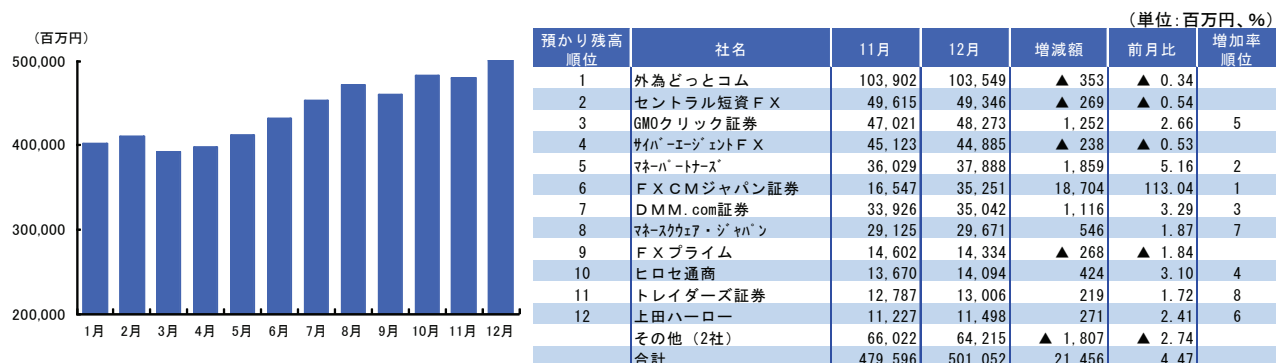
(株)矢野経済研究所 営業本部 広報チーム TEL:03-5371-6912 E-mail: press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報チーム迄お問合せ下さい。

【 預かり残高 】

- 預かり残高ランキングの第1位は外為どっとコムで1,035億円、第2位のセントラル短資FXは493億円。
- 本調査協力企業の預かり残高合計は、前月比で4.47%の増加となったが、大手企業での減少が目立つ。FXCM ジャパン証券が大幅に増加しているのは合併効果によるものである。

図表 1. 預かり残高推移と12月月間ランキング



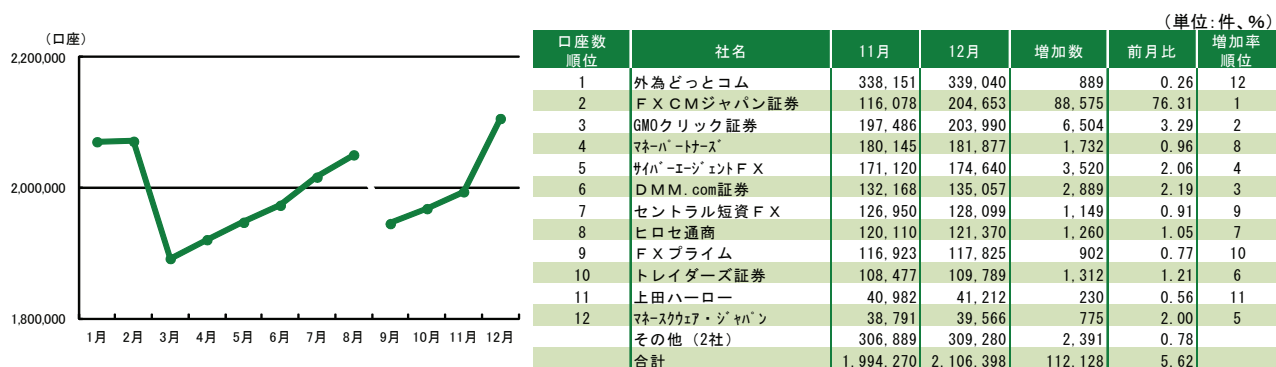
注1. 集計対象は無回答1社を除く14社の合計値。その他には2社含まれる。

矢野経済研究所調べ

【 口座数 】

- 口座数ランキングの第1位は外為どっとコムで33万口座、第2位のFXCM ジャパン証券は20万口座。
- 本調査協力企業の全てで口座数は増加。月間5,000口座以上増加した企業は、GMOクリック証券のみであった。なおFXCM ジャパン証券の口座数が大幅に増加しているのは合併効果によるものである。

図表 2. 口座数推移と12月月間ランキング



注2. 集計対象は無回答1社を除く14社の合計値。その他には2社含まれる。

注3. 2011年10月より口座数公表企業1社減のため、9月に遡り14社として再集計している。

矢野経済研究所調べ

【 取引高 】

- 月間取引高ランキングの第1位はDMM.com証券で15兆円(百万通貨を1億円として換算)、第2位がGMOクリック証券で13兆円(同)であった。本調査協力企業の多くで月間取引高が減少し、月間取引高合計は前月比で25.62%減少した。

図表 3. 月間取引高推移と12月月間ランキング



注4. 集計対象は無回答2社を除く13社の合計値。その他には、11月は5社、12月は4社含まれる。

矢野経済研究所調べ

注5. FXプライムはカバーをしている同業他社等、マネーパートナーズはホワイトラベルを含む。

注6. マネックス証券は、証券単体の店頭取引の公表数値に営業日数を乗じて弊社で算出し、単位を億円で表記。

注7. 百万通貨は1億円として換算。

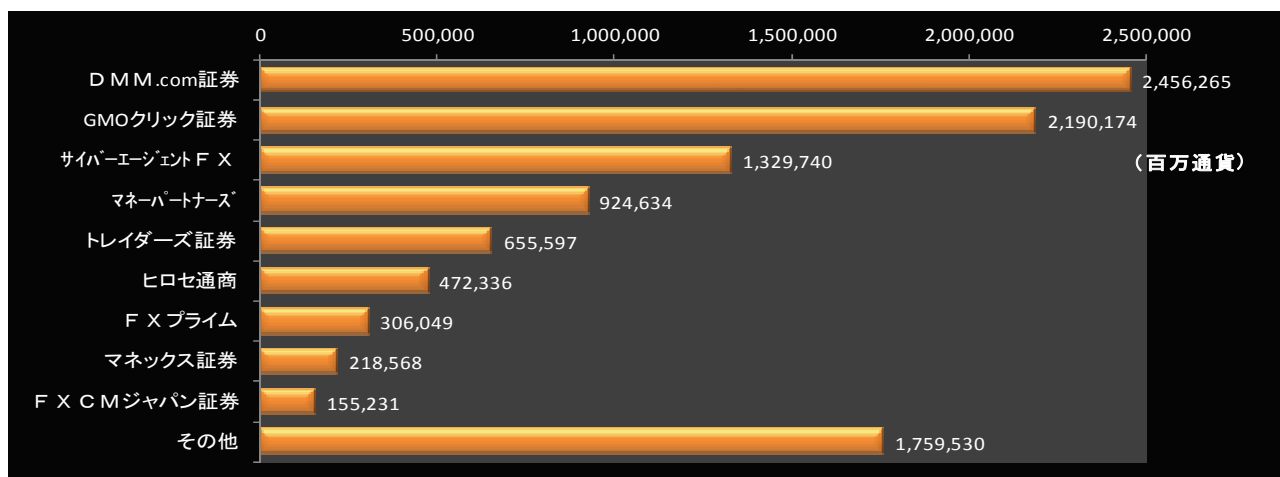
【2011年（1～12月度）集計結果】

- 2011年8月に行われた最終段階のレバレッジ規制による影響と、相場動向により年間取引高は減少したと推察されるものの、複数の通貨で取引するなど一般投資家の投資スタイルが変化した1年だったと思われる。
- この1年、預かり残高と口座数は増減しながらも増加を続けた。

1. 2011年（1～12月度）月間取引高累計

- ・本調査協力企業の中で、DMM.com証券と、GMOクリック証券が2011年（1～12月度）月間取引高累計で200兆円（百万通貨を1億円として換算）を超えた。なお、FX業界では、この他にも200兆円（同）以上の年間取引高のある企業がある。
- ・100兆円（同）を超え、200兆円未満であったのは、サイバーエージェントFXであった。

図表4. 2011年（1～12月度）月間取引高累計



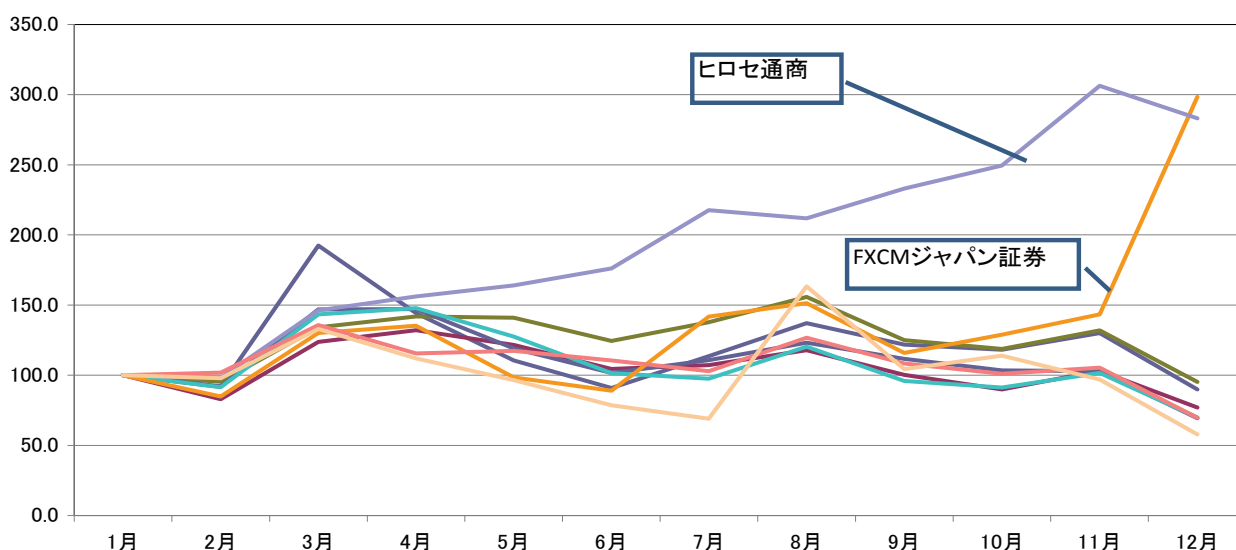
注8. 本調査協力企業13社を対象とし上位9社までを抽出

矢野経済研究所調べ

2. 2011年（1～12月度）月間取引高の増減指数推移

- ・2011年1月を100.0として年間の増減動向を集計した。多くの企業で50.0～150.0の間で推移してきたが、ヒロセ通商は、他社とは異なる動きを示し、月を追うごとに取引高を伸ばしてきている。
- ・FXCMジャパン証券は、競合他社との合併効果により12月に月間取引高が急激に増加した。

図表5. 2011年（1～12月度）の月間取引高増減指数推移



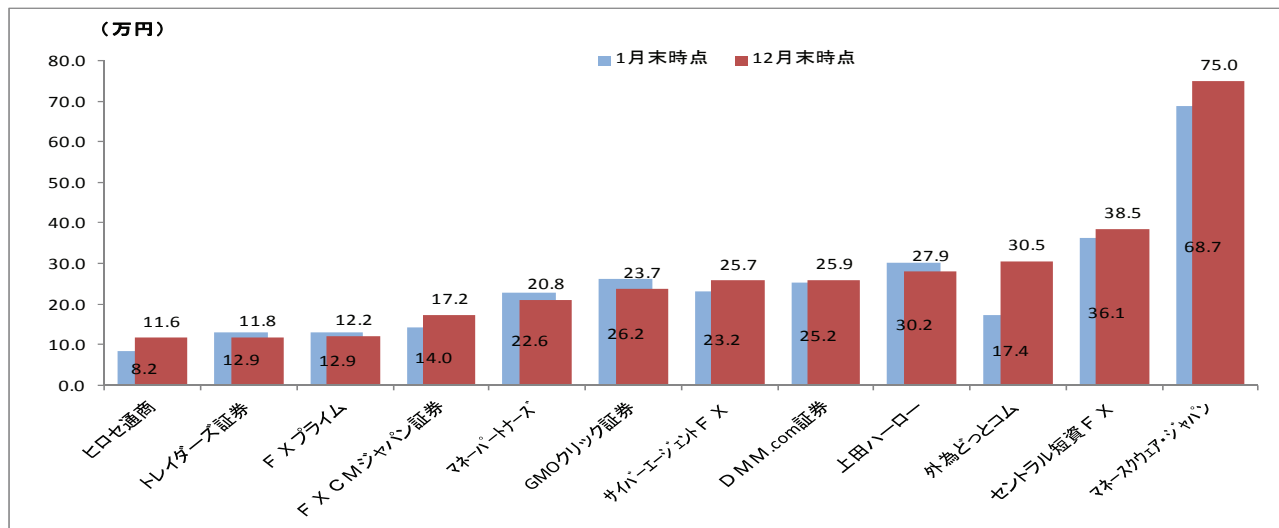
注9. 本調査協力企業13社各社の2011年1月の月間取引高を100として指数化

矢野経済研究所調べ

3. 2011年1月末時点と12月末時点の1口座当たりの平均預かり残高の比較

- 各社の2011年1月末時点と同年12月末時点の1口座当たりの平均預かり残高を比較した。1月に比べ増加した企業と減少した企業がある。預かり残高が増加したことと取引高が伸びたことに相関はない。
- 取引高の多い企業の1口座当たり平均預かり残高は、25万円前後という傾向が伺える。

図表6. 1口座当たり平均預かり残高(2011年1月末時点と12月末時点の比較)



注10. 本調査協力企業12社を対象

矢野経済研究所調べ

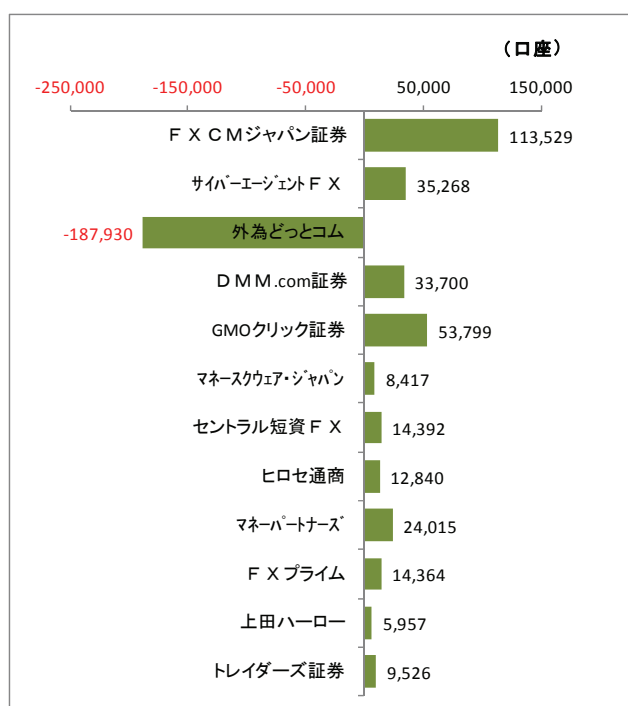
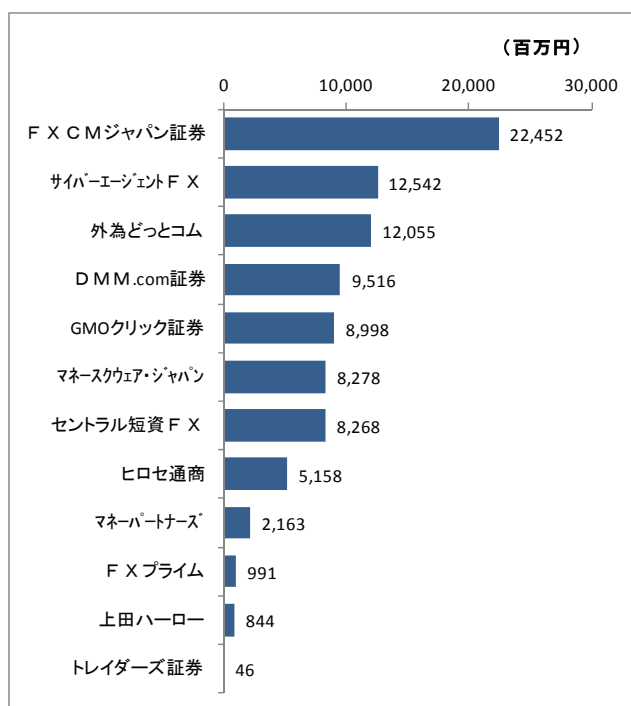
4. 2011年1月末時点と12月末時点の預かり残高、口座数の増減の比較

- 2011年の1月末時点と12月末時点の預かり残高と口座数の増減を比較した。FXCMジャパン証券は預かり残高の増加額、口座数の増加数ともに最も多いが、これは合併によるものである。
- 預かり残高では、サイバーエージェントFXと外為どっとコムが120億円超の増加であった。口座数では、外為どっとコムが商品の1本化を図ったことで大幅に減少しているが、他社は軒並み増加している。

図表7. 2011年1月末時点と12月末時点の預かり残高、口座数の増減の比較(1月比)

<預かり残高の増減額>

<口座数の増減数>



注11. 本調査協力企業12社を対象

矢野経済研究所調べ